

令和5年5月9日

令和4年度飲食料品製造業特定技能1号技能測定試験実施状況報告書
【飲食料品製造業分野】

農林水産省

1 試験実施概要

別紙のとおり

2 試験実施主体（外部機関に試験実施を委託している場合には、その委託先機関を含む。）

一般社団法人外国人食品産業技能評価機構（以下「OTAFF」という。）

国外試験委託先：プロメトリック株式会社（以下「プロメトリック社」という。）

3 試験問題作成体制

試験の問題作成に当たっては、農林水産省は、食品衛生、日本語教育、作業安全等に係る有識者等からなる有識者委員会（以下「委員会」という。）を平成31年1月に設置した。

飲食料品製造業特定技能1号技能測定試験実施要領（以下「試験実施要領」という。）3から5で定める内容に基づき、農林水産省が作成した出題範囲案及び配点基準案並びに農林水産省が公募により選定した試験問題案を作成する民間委託事業者（株式会社日本能率協会コンサルティング）が試験実施要領3から5で定める内容に基づき作成したものを、農林水産省は委員会に提出し、同委員会は試験問題案を確認の上、農林水産省に対し必要な助言を行った。

農林水産省は、同委員会の助言を受け、飲食料品製造業技能測定試験の出題範囲、配点基準及び「飲食料品製造業特定技能1号技能測定試験問題」（以下「試験問題」という。）を策定した。

なお、試験問題は、非公表とした。

4 試験申込方法（申込手順、定員数を超える受験希望者がいた場合の対応）

国内試験においては、OTAFFのウェブサイトで、まず受験者の情報を入力するマイページ登録を行い、その後、同ページ上から試験申込みを行う仕組みとしている。定員を超える申込みがあった場合は、抽選を行っているが、受験機会の公平な提供の観点から、抽選に漏れた回数が多い申込者が優先される仕組み

みとしている。

なお、令和元年度は定員の範囲内で先着順方式としていたが、会場によっては受付開始後すぐに定員に達する状況があったため、令和2年度から抽選方式としている。

国外試験においては、受験希望者がプロメトリック社の予約サイトから申込みこととし、試験実施国内の試験会場の定員の範囲内で先着順により試験申込みを受け付けた。

5 試験実施体制

農林水産省が提供した試験問題を用いて、飲食料品製造業分野の試験を実施した。

OTAFF では、外部有識者で構成される試験管理委員会を設置し、採点結果、合否判定に公平性・公正性が確保されているかについて確認を受けるとともに、試験運営の改善に資するアドバイスを受ける体制を整備し運営した。

国内試験は、マークシート方式で行い、試験会場の設営、受付、試験中の監視の業務を経験と能力のある事業者に請け負わせ、OTAFF 職員が立会い、業務管理を行った。

国外試験は、CBT 方式（コンピューター・ベースド・テスト方式）で行い、アジア各国で CBT 試験を行っている国際的な専門事業者（プロメトリック社）に委託して試験を行った。

6 試験水準

我が国の飲食料品製造業における実務経験年数の合計が平均2年程度（1～3年程度）の者が、本試験に特化した学習用テキスト等を用いた準備を行わずに受験した場合に5割程度が合格する程度の水準とした。

7 合否の基準

学科試験及び実技試験の合計得点の65%以上を合格基準とした。

8 合否の通知方法

（1）国内試験

OTAFF のシステムを改修し、受験者マイページに合格証書を表示するとともにダウンロードできるようにした（手数料は、受験料に含まれる。）。

（2）国外試験

OTAFF から委託したプロメトリック社の受験者マイページに合格証書を表示した（手数料は、受験料に含まれる。）。

9 試験結果の公表方法

(1) 国内試験

試験終了後、試験結果（受験者数や合格者数等）及び合格者の受験番号を OTAFF のウェブサイト上で公表したほか、年度ごとの試験実施状況を取りまとめて、同ウェブサイトにて発表した。

(2) 国外試験

国外試験については、試験実施翌月に試験実施状況を OTAFF のウェブサイトにて公表した。

10 合格証明書発行・交付手数料の有無及び方法（手数料を徴収している場合は、その額を含む。）

(1) 国内試験

受験者マイページに合格証書を表示するとともにダウンロードできるようにしている。なお、合格証書発行のための手数料は受験料に含まれるため、個別に徴収はしていない。

(2) 国外試験

プロメトリック社の受験者マイページに合格証書を表示し、受験者が印刷できるようにしている。国内試験同様発行手数料は受験料に含まれるため、個別に徴収はしていない。

11 試験の適切な運用に向けた取組状況

(1) 具体的な取組状況等（試験実施主体に対する指導監督状況、当初予期しなかった不正行為への対策、不正等が発覚した場合における合格取消措置等）

ア 試験申込段階

① 当初からの取組状況（当初の対応策・不正防止策）

試験案内に受験資格を記載した。また、試験案内に不正行為を例示するとともに、受験時に不正があった場合は、その試験を受けることを禁止し、試験の結果を取り消し、または5年以内の期間を定めて受験を受けることが出来なくなることがある旨を記載し、OTAFF のウェブサイトにて公表している。

② 発生した問題等（不正行為の発覚を含む。）の内容とその対応特になし。

③ ②を踏まえた新たな改善策の内容特になし。

イ 受験者の本人確認段階

① 当初からの取組状況（当初の対応策・不正防止策）

国内試験においては、替え玉受験を防止するため、本人確認書類（在留カード又はパスポート）と受験者名簿（氏名、国籍、生年月日、在留カード又はパスポートの番号、受験者の申請時の顔写真を掲載）と本人の顔を突合し、本人確認ができた者のみ受け付けた。

国外においても、替え玉受験を防止するため、本人確認書類（試験を実施した各国内で通常用いられている顔写真付きの書類）と顔を受付で突合した後、本人の顔写真を試験当日に撮影し、それを合格証書の顔写真に用いることで、替え玉受験が出来ない仕組みとしている。

② 発生した問題等（不正行為の発覚を含む。）の内容とその対応特になし。

③ ②を踏まえた新たな改善策の内容特になし。

ウ 試験実施時

① 当初からの取組状況（当初の対応策・不正防止策）

国内試験において、試験会場ごとに、試験監督者を1名、監督補助員を受験生約30人に対して1人の割合で配置して、受験者の着席時に受験者と受験票（顔写真付き）で本人確認を行い、また、試験開始前にトイレに行った場合も再入室の際に受験票で本人確認を行った。さらにスマートフォンの電源を切らせ、腕時計を外して鞆に入れさせて椅子の下に置かせるなど、不正発生防止の対応を行った。さらに、試験中は、監督補助員等が試験会場内を巡回し、不正が行われないか監視を行った。

国外試験においても、試験室に入室前に、スマートフォン、腕時計も含め、所持品は全てロッカーに入れさせ、試験実施中は監視カメラで常時監視しつつ、監督員が室内を巡回し、不正が行われないよう監視を行った。

② 発生した問題等（不正行為の発覚を含む。）の内容とその対応特になし。

③ ②を踏まえた新たな改善策の内容特になし。

エ 合格通知、合格発表、合格証明書交付・発行段階

① 当初からの取組状況（当初の対応策・不正防止策）

令和3年度より国内試験の合格証書も、国外と同様に、郵送では

なく、受験者マイページに表示、ダウンロードも可能な方式に変更している。また、在留資格認定証明書交付申請等の際に出入国在留管理庁職員が添付された合格証書の真偽を確認できるシステムとした。

- ② 発生した問題等（不正行為の発覚を含む。）の内容とその対応特になし。
- ③ ②を踏まえた新たな改善策の内容特になし。

(2) 不正等の発覚による合格取消の有無（有の場合は、その数及びそれぞれの発覚した不正等の内容）
合格取消事例はない。

12 事業年度途中で、試験問題について、大きな改善を行った場合は、その改善内容、改善の必要性
特になし。

13 試験実施に当たっての試験実施国政府との調整状況及び今後の課題

- ① フィリピン 調整済み
- ② インドネシア 調整済み

14 海外における試験実施国・試験実施回数、国内における地方都市での実施・試験実施回数の拡大に向けた取組内容

令和4年度においては、業界団体のニーズ等を踏まえ、昨年同様国外試験を2か国（フィリピン、インドネシア）、計9都市で実施した。国内試験は、地方都市を含め16都市で計34回実施した。

15 新型コロナウイルス感染症による試験実施への影響及びポストコロナを踏まえた試験実施の内容

(1) 試験申込段階（受験案内等での事前周知等）

受験者に対して OTAFF のウェブサイトの試験案内において、マスク着用義務や受付時の検温実施、マスク未着用者及び発熱がある等体調不良の者については受験を断る事がある旨を周知した。

(2) 試験実施時（当日の試験会場における対応等）

受付前に、検温・手指の消毒・マスクの着用確認をし、試験受付を行った。試験会場においては、各試験ごとに机の消毒を行い、換気のできる会場では空気の入替えを行った。試験を実施した委託先の試験監督者等に

も、検温・手袋・マスク・フェイスガードの着用を徹底させた。

OTAFF は、定員を通常のお半分程度に減らし、席と席の間隔を空けるとともに、試験会場への受験者の入室の際に、検温と手指消毒を行った。

- 16 その他、試験実施全般に関して生じた問題とそれに対する改善措置特になし。

【試験実施概要】

分野：飲食料品製造業分野

試験区分：飲食料品製造業特定技能1号技能測定試験

項番	試験実施場所		試験実施年月	合格発表日	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	試験実施方法	試験実施言語	受験料
	国	都市								
1	フィリピン	セブ ダバオ マニラ	2022年6月	2022年7月11日	100	58	58.0%	学科試験 (CBT) 実技試験 (CBT)	日本語	1,700PHP
2	インドネシア	ジャカルタ ジョグジャカルタ スマラン スラバヤ バンドン メダン	2022年6月	2022年7月11日	722	405	56.1%	学科試験 (CBT) 実技試験 (CBT)	日本語	450,000IDR
3	国内	北海道札幌市 宮城県仙台市 愛知県名古屋市 大阪府大阪市 広島県広島市 香川県高松市 福岡県福岡市	2022年6月	2022年7月25日	5,712	4,569	80.0%	学科試験 実技試験	日本語	8,000円
4	国内	宮城県仙台市 群馬県前橋市 埼玉県さいたま市 東京都江東区 愛知県名古屋市	2022年7月	2022年7月25日	4,926	3,816	77.5%	学科試験 実技試験	日本語	8,000円
5	フィリピン	セブ ダバオ マニラ	2022年8月	2022年9月12日	37	18	48.6%	学科試験 (CBT) 実技試験 (CBT)	日本語	1,700PHP
6	インドネシア	ジャカルタ ジョグジャカルタ スマラン スラバヤ バンドン メダン	2022年8月	2022年9月12日	621	372	59.9%	学科試験 (CBT) 実技試験 (CBT)	日本語	450,000IDR
7	フィリピン	セブ ダバオ	2022年10月	2022年11月10日	57	41	71.9%	学科試験 (CBT) 実技試験 (CBT)	日本語	1,700PHP

【試験実施概要】

分野：飲食料品製造業分野

試験区分：飲食料品製造業特定技能1号技能測定試験

項番	試験実施場所		試験実施年月	合格発表日	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	試験実施方法	試験実施言語	受験料
	国	都市								
8	インドネシア	ジャカルタ ジョグジャカルタ スマラン スラバヤ バンドン メダン	2022年10月	2022年11月10日	739	414	56.0%	学科試験 (CBT) 実技試験 (CBT)	日本語	450,000IDR
9	国内	北海道札幌市 宮城県仙台市 埼玉県さいたま市 東京都千代田区 石川県金沢市 愛知県名古屋市 大阪府大阪市 広島県広島市 香川県高松市 福岡県福岡市 宮崎県宮崎市	2022年10月	2022年11月14日	9,611	6,520	67.8%	学科試験 実技試験	日本語	8,000円
10	フィリピン	セブ ダバオ マニラ	2022年12月	2023年1月12日	76	41	53.9%	学科試験 (CBT) 実技試験 (CBT)	日本語	1,700PHP
11	インドネシア	ジャカルタ ジョグジャカルタ スマラン スラバヤ バンドン メダン	2022年12月	2023年1月12日	967	610	63.1%	学科試験 (CBT) 実技試験 (CBT)	日本語	450,000IDR

【試験実施概要】

分野：飲食料品製造業分野

試験区分：飲食料品製造業特定技能1号技能測定試験

項番	試験実施場所		試験実施年月	合格発表日	受験者数(人)	合格者数(人)	合格率(%)	試験実施方法	試験実施言語	受験料
	国	都市								
12	国内	北海道札幌市 宮城県仙台市 茨城県水戸市 埼玉県さいたま市 東京都江東区 愛知県名古屋市 京都府京都市 大阪府大阪市 広島県広島市 香川県高松市 福岡県福岡市 鹿児島県鹿児島市 沖縄県那覇市	2023年1月	2023年1月31日	6,653	4,521	68.0%	学科試験 実技試験	日本語	8,000円
13	フィリピン	セブ ダバオ マニラ	2023年2月	2023年3月10日	89	45	50.6%	学科試験 (CBT) 実技試験 (CBT)	日本語	1,700PHP
14	インドネシア	ジャカルタ ジョグジャカルタ スマラン スラバヤ バンドン メダン	2023年2月	2023年3月10日	938	621	66.2%	学科試験 (CBT) 実技試験 (CBT)	日本語	450,000IDR